

## 『つらい時こそ支え合える世界へ』

小城市立小城中学校 1年 <sup>たけとみ</sup>武富 <sup>ひさき</sup>日咲

現在、世界中で流行している新型コロナウイルス。この新型コロナウイルスでいじめや差別がいろいろなところで起こっています。テレビでは、いじめや差別についてもニュースがありました。そのニュースでは、「誰がかかってもおかしくない状況になっている。しかしそんな中、新型コロナウイルスによるいじめや差別があっている。そんないじめや差別を減らしていきたい。」と放送されていました。その時私は、いろいろなところでいじめや差別が起こっている事を初めて知りました。新型コロナウイルスによるいじめや差別についてもっと詳しく知り、少しでも減らしていきたいと思った私は、そこで、新型コロナウイルスによるいじめや差別について調べてみることにしました。

兵庫県のあるところでは、コロナにかかった後、復帰した人が近寄るな、触るな、などの暴言をうけたり、無視された例です。みんなの輪に入れず、とてもいやな思いをしたそうです。

また、ある県立高等学校では、生徒同士でSNS等のメッセージで感染者を特定しようとする働き(犯人探しの様なもの)があった例です。

私は、そのような例を見て、なぜそんなに差別をする必要があるのかな、と思いました。コロナにかかった後に復帰して勇気を出して来た人に対して距離感を出すのは、良くないことだと思います。私は、勇気を出して来た人に、はげましの言葉をかけることと、いつも通り、接したいと思います。

それに加えて、SNS等で感染者を特定されるのもとてもつらい思いをしたと思います。その人も新型コロナウイルスにかかりたくてかかったわけではないと思います。年齢や性別関係無く、私はその人に寄りそってあげたいです。

私は、そんな人たちを支えたいと強く思いました。そのために、まずいつも通り接する、はげましの言葉をかける、その人に悩みがあれば優しく相談にのる。私は、この三つをすると良いのかな、と思います。

また、暴言を吐いたり、無視したりする人にも声をかけた方が良いと考えました。そんなことをする人たちには、される側の気持ち、自分がされる側だった場合のこの話をすると良いのかなと思います。

私の身近にそんな人はいませんが、もしこれからそのような人と出会ったら、実行してみようと思います。私以外の人にもこれを是非、実行してほしいと思います。これをみんなが実行してくれたら、いやな思いをする人がどんどん減ってくると私は信じています。